

保育士を目指す学生のリズムダンスへの興味関心に関する授業の効果測定

伊藤 照美
愛知学泉短期大学

The effect measurement of the class about the interest in rhythm dance of the student to be a childcare person

Terumi Ito

キーワード：創作 Creation, ダンス Dance, グループ学習 Group learning

1. 緒言

保育におけるリズムダンスとは、保育園や幼稚園で思いきり体を動かすダンスである。リズム感や運動能力をアップさせるだけでなく、友達とのコミュニケーションを豊かにし、共に感情を込めて踊ったり、イメージをとらえて、自己を表現したりすることに楽しさや喜びを味わうことのできる、心身ともに成長できる運動でもある。幼児は、好きなアニメの音楽や、流行りの音楽に合わせて、動きを表現して楽しむことが好きである。また、運動会やお遊戯会、クリスマス会など大きな行事から、保育参観、日々の保育などで取り入れる機会が多いのがダンスである。

保育士を目指す学生にとって、ダンスや表現について学び、指導力を身につけることは、必要不可欠である。しかし、リズム感がなくダンスを踊ることが苦手な学生は、実習や現場での指導に不安を感じていることが多いと考えられる。そして、リズムダンスの授業に対して、あまり意欲を持ってないでいる。そのような学生に対して、リズムダンスの授業に興味を持たせ、意欲的に取り組ませて、リズムダンスの苦手意識を小さくさせたいと考えられる。そのために、どのような授業方法を行えば、学生の苦手意識が低下するのを明らかにする必要がある。よって本研究では、リズムダンスに対する学生の苦手意識を低下させる授業方法がどの程度効果があるかを明らかにすることを目的とする。

(1) 授業の展開

短期大学

授業は2年生の「幼児体育Ⅱ」（選択科目）であり、平成29年度は64名が受講した。授業の展開は以下のとおりである

回数	内容
1	オリエンテーション
2～3	2～3曲のリズム体操を習得
4	グループ分け 選曲（テーマやイメージを考える）
5～6	グループ学習
7	第1回 発表会（ビデオ撮影）
8	ビデオ鑑賞 振り返り グループ分け 選曲（対象児、テーマやイメージを考える）
9～10	グループ学習
11	第2回 発表会（ビデオ撮影）
12	ビデオ鑑賞 振り返り グループ分け 選曲（対象児、テーマやイメージを考える）
13～14	第3回 発表会（ビデオ撮影）
15	ビデオ鑑賞 振り返り まとめ

(2) 授業風景



図 1. 準備体操：曲に合わせて幼児体操



図 2. グループ学習：
曲決め，テーマ，イメージ等の話し合い



図 3. グループ学習：創作開始



図 4. グループ発表：ビデオ撮影



図 5. グループ発表：ビデオ撮影



図 6. グループ鑑賞



図 9. 自己評価



図 7. ビデオ鑑賞



図 8. 自己評価

(3) 学生の自由記述

1) この授業を受講した理由

- ・楽しそうだったから。
- ・身体を動かすことや踊ることが好きだったから。
- ・選択科目をすべて取りたかったから。
- ・選択科目の中でよさそうな授業だと思ったから。
- ・ダンスが好き、興味があった。
- ・将来、自分で子どもたちのダンスを考えた時など役立つと思ったから。(お遊戯会等)
- ・子ども向けのダンスを知りたかった。
- ・子どものダンスを考えるうえで、踊りやすい振付を知りたい、アイディアがほしかった。
- ・ダンスの教え方を学びたかった。
- ・就職した時に現場で、発表会とかに役立ちそうだから。
- ・ダンスは得意ではないので、少しでも経験と案がほしいと思ったから。
- ・教育・保育実習に役立つとおもったから。
- ・人前で踊ったり、話したりすることに慣れるため。
- ・教科担任との相性。

2) この授業の感想 他

- ・単位のために取ったが、とても楽しくて取ってよかったと思った。自分達で創作をするので、人とコミュニケーションを取ること、踊りを考えていく力が上がったと思う。
- ・グループのみんなと協力して意見を出し合うことができ、楽しかった。自分の意見も言えて良かった。

- ・幼児の好きそうな曲で、1 から考えて踊れたことが楽しかった。
- ・今後、色々な踊りを使ってダンスを作れたらいいと思った。
- ・すべてのダンスを楽しく踊れて良かった。
- ・実習で踊れると良いと思った。
- ・他グループのダンスを観て、色々な振付を習得できて良かった、保育者になってから使えると思った。
- ・楽しくみんなで協力しながら授業ができた。
- ・色々なダンスを踊ることができて楽しかった。
- ・振付のレパートリーを身につけられた。
- ・保育で活かせる良い授業でした、もっと続けたい。
- ・ダンスが楽しいと思えた。
- ・毎回グループが変わり、ダンスの踊り方もたくさん知ることができて、とても楽しかった。
- ・友だちとの信頼が深まった。
- ・振付を決める時、話し合いながら進めることが楽しかった。
- ・限られた時間の中で、創作することは集中力がついていた。
- ・創作の難しさはあったが、楽しく踊れた
- ・最初は考えることが面倒くさかったが、みんなが色々なアイディアを出してくれて、考えることが楽しくなった。
- ・身体を動かす楽しさを知った。
- ・ダンスを覚えることが辛かった。
- ・子どもの前では踊れるが、大人の前で踊るのは苦手だと感じた。

2. 方法

1. 調査期間：平成 29 年 7 月
2. 調査対象：女子短期大学 幼児教育学科 2 年生 64 名（選択授業）。データの記入漏れなどは変数ごとに欠損値として扱った。

3. 調査内容

(1) 被調査者の属性：ダンス経験の有無、ダンスについて鑑賞することが好き、得意、ダンスが好き、中学・高校・大学での受講の有無を調査した。

(2) リズムダンスの苦手意識について

苦手意識について、「リズムダンスの授業後、ダンス

を踊ることは、恥ずかしくなくなった」、「リズムダンスの授業後、ダンスを踊ることは、難しいと思わなくなかった」、等の 5 項目を作成し、5 件法を用いて得点化した（表 1）。

(3) リズムダンスの苦手意識に関連する要因について
リズムダンスの苦手意識に関連する要因について、発表会に関する要因とグループ学習に関する要因と大きく 2 つに分け、5 件法を用いて回答を求めた。

① グループ発表会について

「他グループの発表を観て、感動した」、「他グループの発表を観て、楽しかった」、等の 3 項目を作成した（表 2）。

② グループ活動での話し合いについて

「いろいろなアイディアがうかんできた」、「真剣に考えることができた」、「みんなと仲よく話し合えた」、等の 9 項目を作成した（表 3）。

③ 自由記述として

「この授業を受講した理由」、「この授業の感想」を記述してもらった。

(4) 分析方法

質問項目の「当てはまる」を 5 点、「やや当てはまる」を 4 点、「どちらでもない」を 3 点、「やや当てはまらない」を 2 点、「当てはまらない」を 1 点として各質問項目の得点を算出した。

表 1. リズムダンスの苦手意識について

記述統計	度数	平均値	標準偏差
V8 苦手意識 恥ずかしくない	64	3.48	1.342
V8 苦手意識 難しくない	64	3.47	1.023
V8 苦手意識 楽しい	64	3.97	1.083
V8 苦手意識 考えることは面倒ではない	64	3	1.127
V8 苦手意識 人前で自信がつく	64	3.05	0.999

表 2.グループ発表について

記述統計	度数	平均値	標準偏差
V13発表を観て感動した	64	3.42	1.232
V14発表を観て楽しかった	64	4.11	0.978
V15発表を観て刺激を受けた	64	3.53	1.054

表 3.グループ活動での話し合いについて

記述統計	度数	平均値	標準偏差
V16グループ学習 積極的	64	3.69	1.111
V17グループ学習 アイディアが浮かぶ	64	3.59	1.065
V18グループ学習 真剣に考える	64	4	0.926
V19グループ学習 仲よく話し合えた	64	4.14	0.941
V20グループ学習 良い雰囲気だった	64	4.09	0.886
V21グループ学習 話し合いは楽しかった	64	3.89	0.961
V22グループ学習 協力し合い練習できた	64	4.14	0.852
V23グループ学習 楽しく練習ができた	64	4.11	0.893
V24グループ学習 声を出し合って練習できた	64	3.89	0.896

4. 結果

(1) リズムダンスの授業を苦手とする要因について ダンスの発表を苦手とする要因について相関分析

したところ、「リズムダンスの授業後、ダンスを踊ることは、恥ずかしくなくなった」と「楽しく練習ができた」の質問項目の合計の相関係数は 0.368 であり 1%水準で有意であった。また、「リズムダンスの授業後、ダンスを踊ることは、難しいとは思わなくなった」と「積極的に意見を言うことができた」の質問項目の合計の相関係数は 0.550 であり 1%水準で有意であった。さらに、「楽しいと思うようになった」と「仲よく話し合えた」の質問項目の合計の相関係数は 0.690 であり 1%水準で有意であった。この結果からグループ活動がうまくいくほどダンスを踊ることへの苦手意識が低くなることが示された(図 1)。

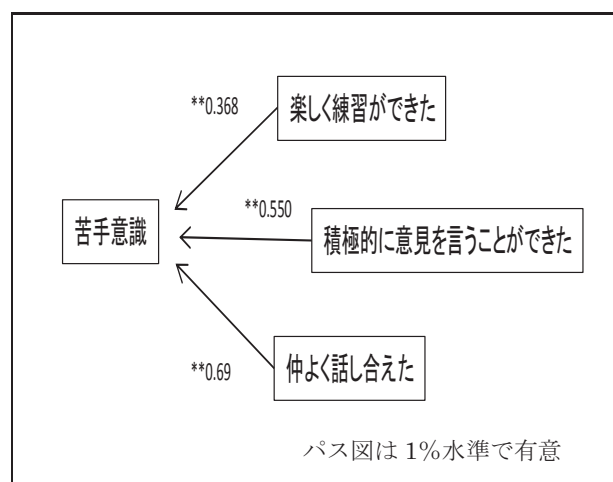


図 1 グループ学習と苦手意識のパス図

(2) リズムダンスの授業を苦手とする要因について

ダンスの発表を苦手とする要因について相関分析したところ、「リズムダンスの授業後、楽しいと思うようになった」と「他のグループの発表を観て、刺激を受けた」の質問項目の合計の相関係数は 0.321 であり 1%水準で有意であった。「リズムダンスの授業後、人前で踊ることに自信がもてた」と「他グループの発表を観て、楽しかった」の質問項目の合計の相関係数は 0.352 であり 1%水準で有意であった。さらに、「リズムダンスの授業後、考えることが面倒とは思わなくなった」と「他のグループの発表を観て、刺激を受けた」の質問項目の合計の相関係数は 0.428 であり 1%水準で有意であった。この結果から他のグループのダンスを鑑賞することで、向上心が高くなることが示された(図 2)。

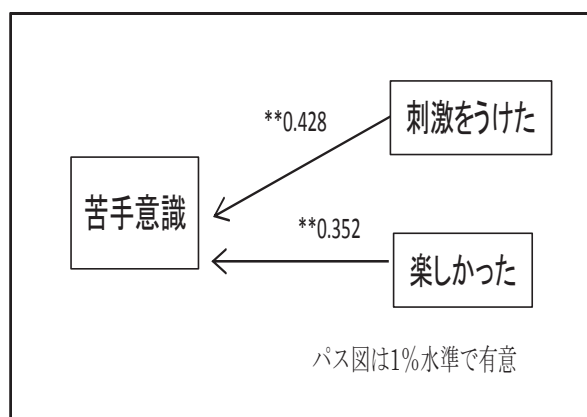


図2 ダンス発表と苦手意識のパス図

5. 考察

(1) グループ活動が及ぼす苦手意識への影響

苦手意識とグループ活動の各要因を分析したところ、グループ学習が自己の向上心につながる傾向が強いことが示された。つまり、グループ学習を通じて、みんなと協力し合うことでグループワークの楽しさを知り、完成と達成感を味わうことで、苦手意識が低くなると考えられる。テーマやイメージを考えていく中で、積極的に意見を出しあえる、意見を聞ける、といった良い雰囲気づくりができ、イメージに近づくことで楽しく創作と練習ができることが苦手意識を低くさせると考えられる。

(2) 発表会が及ぼす苦手意識への影響

苦手意識とグループ発表の各要因を分析したところ、グループ発表が自己への自信をもたせる傾向が強いことが示された。つまり、グループの発表を観ることで、他グループのイメージや表現の仕方に感動や刺激をうけ、自信につながると考えられる。他グループの発表を鑑賞することにより、リズムダンスへの意識が変わり、楽しくなったことと合わせて、自分たちのダンスを見てもらいたいといった意欲が高くなることが考えられる。

6. 結論

リズムダンスの授業を受ける学生の苦手意識の要因として、人前で発表する恥ずかしさや、創作を考えることが面倒である等が影響されると思われた。本研究の結果から、グループで創作するなか、良い雰囲気づくりができ、話し合いの中でお互いの意見を出し合い、協力することにより、楽しいと思える

ことが自信につながると考えられる。また、発表に向けて、積極的に意見を言いあい、アイデアが浮かび、やる気がおこる。さらに、学生が自分たちのダンスを他のグループにも観てもらいたいといった意欲もあらわれ、人前での発表がモチベーションを高めることが影響していると考えられる。しかし、発表までに納得のいく創作が完成しなかった場合、観てもらいたくない気持ちが発表時に感じられた。

研究対象が2年生の選択で受講した学生であったため、ダンスを苦手とする学生は少なく感じた。自由記述の中から、少人数ではあったが、ダンスは苦手だが、仲の良い友達がリズムダンスの授業を受講するから自分も受講するといった学生がいた。これらの学生は、ダンスを踊ることを得意としてない。その理由として、人前で踊ることに抵抗があることや、創作することが難しい、リズム感がない等といった理由が考えられた。しかし、授業が終了した後、グループ学習を中心とした授業を進めていくことで、踊りを考えていく力がついた。また、グループのみんなと協力して意見を出し合うことができ、楽しむことができた。ダンスを苦手とする学生にとって、個人で考えることや発表することは困難ではあるが、グループ学習を通して、自分の考える力や協力する気持ちが身に付いたと考えられる。また、グループの仲間と創作活動から完成までに、全員の考えがまとまり、発表することが楽しみとなり、恥ずかしさもなくなったと考えられる。

保育士にとって、保護者や同僚とのコミュニケーション能力や、子どもたちと身体を動かすための十分な体力、保育をする上で大切な協調性、子どもが好きなこと、笑顔で明るい雰囲気などが大切なことである。今後は、保育士に求められる資質と絡めて、授業内容を考えていく必要がある。

参考文献

- 1) 宮下恭子 保育専攻学生の表現・ダンスに対する意識とその学習における自己評価 (2005)
- 2) 宮下恭子 学生のダンスや身体表現についての意識や自己評価に関する研究 (2011)
- 3) 金子直子・松本富子・鈴木武文 5～6 歳児における身体表現の特徴と感覚運動能力・創造的能力との関係について (1998)
- 4) 高田康史・松尾千秋・矢野下美智子 現代的なリズムのダンス授業における学習内容の検討「ステップ習得学習」と「自由な運動学習」の比較を通して (2014)